

Rotary



奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために
SERVE TO
CHANGE LIVES

WEEKLY

第1498回任意例会

2021年（令和3年）9月9日

清水中央ロータリークラブ

<http://www.portwave.gr.jp/shimizu-chuo/>

会 長 渡 邊 芳 一
副会長 野々村勲夫
幹 事 黒 田 侑 加

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 清水ナショナルトレーニングセンター

事務所 静岡市清水区真砂町3-20

054-371-9000

054-340-2550

◆会長あいさつ

会長 渡 邊 芳 一 君

国際ロータリー2620地区ガバナー小林聡一郎様、静岡第3グループガバナー補佐 八木伸廣様、地区幹事 中尾 均 様、静岡第3グループガバナー補佐事務局 望月重伸様、本日はようこそ清水中央ロータリークラブの例会へお越しいただきました。

また、本日は清水北ロータリークラブの皆様にも、例会見学として参加いただいております。合わせまして感謝申し上げます。

小林ガバナーには本来なら、全線開通したての中部横断道を利用して清水へお越しいただき、山梨と静岡がどのくらい近くなって、行き来が便利になったかを体験としてお伝えいただけると期待しておりましたが、残念ながら今回の例会はリモートでの参加をお願いいたしました。

清水中央ロータリークラブは、静岡市のコロナウイルス新規感染者指標が、1週間の累計で10万人当たり25人を超え、ステージ4になりますと休会となる規定があります。昨日時点で減少傾向ですが70人となっております。

ただし、休会だから何もやらないとなると、ロータリークラブとしての資質と会員の存続意識の低下を招きます。コロナの感染の拡大により、当クラブは期せずして8月19日の例会より、リモートで任意参加例会をスタートすることになりました。そのような状況で、今回の例会へも何人かの方が新規でzoomを導入して参加をしていただいております。今後は任意参加例会からリモート正式例会の移行も視野に入れて、会員のリモート環境のフォローを行っていきます。

しかしながら、リモート例会が年末を越えるようなら、退会も視野に入れているという、厳しいご意見もいただいております。

静岡市のコロナの新規感染者指標がレベル3以下になり、非常事態宣言が解除されたときには、年間事業計画にもありますように、リアルとリモートを利用したハイブリット例会を実施していきたいと思います。例会場では食事やお弁当の用意や、感染対策に配慮し

ながらリアルでの例会を再開したいと考えます。

コロナの感染拡大で、2620地区に限らず世界中の多くのクラブが似たような状況だと思いますが、アイディアを出し合って、それぞれがロータリーだからできる活動を展開していると思います。

私達も10月にはハイキング例会、12月には桜が丘高等学校との「岡フェス」と年末には、クリスマス例会と楽しい活動が迫ってきますが、必ず出来ると信じて準備していききたいと思ひます。

本日は、すでに多くのクラブを訪問された小林ガバナーから、コロナ禍のなかで活動するクラブの奮闘やアイディアなどもお聞きできることと楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆お客様紹介

国際ロータリー第2620地区ガバナー

小 林 總一郎 様

静岡第3グループガバナー補佐

八 木 伸 廣 様

国際ロータリー第2620地区地区幹事

中 尾 均 様

国際ロータリー第2620地区地区副幹事

古 屋 宏 貴 様

ガバナー補佐事務局

望 月 重 伸 様

清水北ロータリークラブ

望 月 啓 伸 様

野 田 高 志 様

前 澤 秀 勇 様

◆幹事報告

- ロータリー日本100年史が事務局に届いております。貸出ししますので、事務局にお申し出ください。また、購入後希望の方は事務局までお願いいたします。

◆ガバナー挨拶

国際ロータリー第2620地区ガバナー

小林 總一郎 様

先ず、7月3日に熱海で発生した土石流でお亡くなりになられた方のご冥福、また被災された方々の一日も早い復興をお祈りいたします。各クラブでは支援金を集めて頂きありがとうございました。全国のクラブからも沢山の支援金を寄せて頂きましたので、8月20日に第1回として6,100万円を熱海市長に「全額被災した皆さんの生活支援に使って欲しい」とお渡ししました。ご協力頂きどうもありがとうございました。

共存の中にこそ自分を生かす道がある

私たちはクラブをかけがいのない場と思い、例会を友愛や学びの場として尊く思ってきました。そして互いを思いやりながら、その心を地域や世界に向けて視野を広げ、活動を広げてきました。日本的な感性でそのようなロータリーを形成し発展させてきたのだと思いますが、日本という風土に見事に適合したロータリーだと思っています。

一方世界的には、奉仕活動を主体にロータリーを考える傾向にあり、ロータリー財団のポリオ根絶を始めとする取り組みのように、より多くの会員でより大きな奉仕活動を目指すことになります。実際世界では、それだけ多くのニーズが存在し、ロータリアンの支援を必要としていることも現実です。

ロータリーには最高絶対の単一概念が存在しません。常に「奉仕と親睦」、「利己と利他」のように相対的に考えることを要求されますので、一つに決めつけるのではなく、日本的感性のロータリーと奉仕活動の世界のロータリーとを、どのように考えるのかということになります。

でもこれは今の私たちにとっては、相反することではありません。どちらか一方のロータリーしかないのではなく、その両方のバランスを上手にとりながらクラブに軸足を置いて、地域や世界で奉仕活動をしているという姿ではないでしょうか。当然クラブや例会を自己研鑽の機会と捉えてもいるでしょうし、人格形成の場ともしているでしょう。そしてそういう自分を他者のために活かすことも大きな使命と思っているのだと思います。一人では生きられない共存の中にこそ自分を生かす道があるということだと思っています。

RI 会長テーマ「SERVE TO CHANGE LIVES」

今年度のシェカール・メータ RI 会長はテーマに「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう—みんなの人生を豊かにするために」を掲げられました。そしてキーワードは「GROW MORE DO MORE」で、若い世代と女性をロータリーに迎え入れて会員基盤を強

くし、人々の人生が豊かになるよう奉仕活動をししょう、と要請されました。世界的なニーズに応えるロータリーの傾向に合致した年度テーマだと思います。

地区においてクラブにおいてこの要請をどのように具現化するのかということで、会員基盤の強化については私なりの取組方策を提示させていただき、ロータリー奉仕デーについては各クラブに計画・実施していただくことにしております。会長始め会員皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

Onlineで新たなつながりを

ワクチン接種が進んでいるとはいえコロナ禍で視界不良のクラブ運営になりますのでご苦労されると思いますが、クラブに軸足を置いた例会と奉仕活動のバランスを上手にとって、会員相互の連携を強め、地域や世界で奉仕活動をしてくださるようお願いいたします。

コロナ禍を経験した私たちは、Onlineでの新たな繋がり方を手に入れました。Online開催の地区RLIは何回もの実績を礎として、全国的にもトップクラスと高評価されていますし、各クラブにおいてもハイブリット例会やOnline例会なども行われています。窮屈で不自由なコロナ禍でも人と人との繋がりには有効な方法ですので活用いただきたいと思います。

ロータリー未来形成（Shaping Rotary's Future）

今年初めにRIは「未来形成（SRF）」という新たなプラン概要を提示しました。主には2030年から始める管理方法改革のためのプランで、2022年4月の規定審議会での審議対象になると言われています。

現在分っているのはここまでで、これから提示に対しての意見を取り入れながら形成されていくことです。具体的にはどのようなものになるのかは現状でははっきりしません。しかしこのようなロータリーの未来に向けての取り組みが始まっていることだけはご承知置きいただきたいと思います。今年度これがどのように動き、地区としてどのように対処していくのかも手探り状態ですが、将来の地区にとって不利にならないような検討だけはしていかなければならないと思っています。

クラブ会長、幹事を始め、会員の皆さまと一緒に、本年度の第2620地区が「GROW MORE DO MORE」出来ますよう、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、毎月第1月曜日の静岡新聞の朝刊に、小さな広告ですが川柳を書いた広告を掲載しています。そこに記されているQRコードから、ロータリーの活動の動画が見られます。ぜひご活用下さい。